

2020年度(第3年度)

リスクアセスメント 実践研究会

経験・実績豊富な一流講師の指導と
異業種メンバー(製造から流通・販売まで)との情報交流により、
リスクアセスメント手法を実践的に活用し、
リスク対策を向上させる!

主な研究テーマ (詳細はp.4～6をご参照ください)

- 製品等の開発段階におけるリスクアセスメント
- 事故情報に基づくリスクアセスメントと市場措置判断
- IoT時代の安全リスクアセスメント

研究会指導講師 (五十音順・敬称略)

主任指導講師

伊藤 淳(日科技連囑託/リスクアセスメント実践研究会統括主査)

指導講師

荒木 敏(ダイキン工業株)

市川 敏夫(キヤノンメディカルシステムズ株)

久保田 享(株豊田自動織機)

澤田 勝(パナソニック株)

根津 幸宏(東芝テック株※)

三本 利幸(株タスク)

●上記の指導講師に加え、テーマにより外部から講師をお招きします。

主催：一般財団法人 日本科学技術連盟

URL：<http://www.juse.or.jp/reliability/>

参加のおすすめ

リスクアセスメントは既に、世界の多くの国や地域において、製品やサービスを市場に提供する上で不可欠なプロセスとしてその実施が義務付けられています。

従って、全ての製品及びサービスは、社会が許容するリスクレベル以下のものしか出荷・販売・提供することはできません。一方、全ての製品やサービスには必ずリスクが内在しているわけであり、製品やサービスを提供する者はそのリスクが、社会が許容するレベル以下であることを合理的且つ透明性をもって説明できなければなりません。

その実現のためには、製品やサービスの提供者は、リスクアセスメントを実施しリスクを社会が許容するレベル以下にする仕組みを構築し運営しなければなりません。その仕組みの実践には必ずと言って良いほど、リスクアセスメント手法やプロセス等に課題が見つかり、場合によってはその運営に支障を来すことすらあります。



リスクアセスメント実践研究会
統括主査

伊藤 淳

リスクアセスメント実践研究会は、正にこのリスクアセスメントの手法や仕組みにおける実践課題の解決策を見出すことを研究目的として活動している研究会で、その特徴には次の三つが挙げられます。第一には、リスクアセスメントの経験豊富な指導講師が研究活動を補佐することです。研究活動は数名からなるグループを編成し進めることを基本にしますが、その研究グループ毎に指導講師が付き、研究テーマの選定から研究発表までを懇切丁寧に指導します。これにより、リスクアセスメントの実践経験が浅い方も安心して参加いただくことができます。

第二の特徴は、リスクアセスメントの実践に関することであればその研究内容には制約が全く無いということです。もちろん参加にあたって研究対象が具体的に決まっていればその内容を研究テーマにできます。また漠然と“リスクアセスメント力を高めたい”という方にも、指導講師が自らの経験を活かし最適な研究活動になるよう確実にサポートします。

第三の特徴は、研究成果は成果発表会で発表するようにしているということです。一年間の研究結果を成果にまとめ発表することで、研究会参加にあたっての実践課題の解決策を確実に報告できるようにしています。

具体的な活動内容の例を4ページ以降に紹介しています。多くの方の参加を心からお待ちしています。

なお、本研究会参加者はリスクアセスメント手法のPSPTA及びHHAの知識が必要になりますので、当財団の「リスクアセスメント実践コース」を可能な限り事前に受講いただきますようお願いいたします。



今年度初めて参加される方には、4冊をセットで進呈します。

ー世界に通用する製品安全リスクアセスメントシリーズー 経産省製品安全課長推薦図書

- 『R-Map とリスクアセスメント基本編』
- 『手法編（上・下）』
- 『R-Map 分析事例 100 選 ー安全設計のための事例 100 選ー』

※研究会メンバーは、定価の20%引きで購入できます。

R-Map は日本科学技術連盟の登録商標です。

リスクアセスメント実践研究会 活動内容

活動内容 ※都合により、変更になる場合がございますこと、予めご了承ください。

回	開催日 (予定)	活動内容		
		10:00 ~ 12:00		13:00 ~ 16:30
1	2020年 5月29日 (金)	オリエンテーション	研究会の説明	共通演習
2	6月26日 (金)	研究活動 (テーマ設定) ①		
3	9月25日 (金)	特別講演会 (第1回)		研究活動②
4	10月23日 (金)	研究活動③		
5	11月20日 (金)	研究活動④		
6	12月18日 (金)	研究活動⑤		全体研究会 (中間報告)
7	2021年 1月22日 (金)	特別講演会 (第2回)		研究活動⑥
8	2月19日 (金)	研究活動⑦		
9	3月26日 (金)	成果発表会		17:00 ~ 情報交流会

1. 特別講演会

製造物責任・製品安全の基本的な考え方や諸手法、またはこれからの重要なテーマ、関心が高いテーマについて研究員の要望も反映しながら企画した、専門家による講演および質疑応答を行います。本年度の講演テーマ、講演者については随時ホームページで公表いたします。

【参考】過去の特別講演テーマ (実績)

講演テーマ	講演者	講演テーマ	講演者
産業事故削減に不可欠な安全技術とその潮流	前田 育男氏 (IDEC株式会社)	ISO/IECガイド51 (第3版) の解説と要点・経緯について	前田 育男氏 (IDEC株式会社)
人間の命を奪った事故～その背後要因に迫るあなたにもある～ヒューマンエラー～克服できるか	関口 雅夫氏 (株式会社JR東日本パーソナルサービス顧問)	事故調査におけるヒューマンファクターアプローチ	垣本 由紀子氏 (日本ヒューマンファクター研究所)
製品安全におけるR-Mapの重要性について 一消費生活用製品向けリスクアセスメントのハンドブックの解説を含めて	藤代 尚武氏 (経済産業省 商務グループ製品安全課 製品事故対策室長)	組込みソフトウェアと機能安全	金田 光範氏 (京都産業技術研究センター)
(社)日本サッシ協会とYKK AP株式の製品安全への取り組み	河端 茂氏 (YKK AP株式会社)	しなやかな現場力が安全を支える 一新しい安全マネジメントの考え方	芳賀 繁氏 (立教大学 教授)
「きぼう日本実験棟」開発におけるヒューマンエラー対策	山口 孝夫氏 (宇宙航空研究開発機構)	リスクマネジメントのための失敗学 一再発防止と未然防止	濱口 哲也氏 (東京大学大学院 特任教授)
ユーザビリティと安全性	黒須 正明氏 (国立大学法人総合研究大学院大学 教授)	ヒューマンエラー発生メカニズムとその対策	河野 龍太郎氏 (自治医科大学 医学部メディカルシミュレーションセンター センター長 教授)
これからのクライシス・コミュニケーション	宇於崎 裕美氏 (有限会社エンカツ社 取締役社長)	リスクを正しく捉える・リスクを下げる現場力を引き出す ＜新しい領域＞にたどり着く道筋を示す「創造学」	島崎 敬氏 (国立研究開発法人防災科学技術研究所)
巨大システムの安全確保における現代的課題 一原子力重大事故から学ぶ人間・組織社会と技術システムのかかわり方	田辺 文也氏 (株式会社社会システム安全研究所 所長)	宇宙機システムの安全確保 一安全かつ確実なミッション達成のために	大賀 公二氏 (有人宇宙システム株式会社 安全開発保証部部長)
小売業における製品安全と品質管理 一消費者、製造事業者をつなぐ小売業としての品質管理のあり方	北原 一氏 (株式会社イトーヨーカ堂)	AI技術やIoT技術を活用したデータに基づくアプローチ 一日常生活データを活用した製品安全や製品開発へのアプローチ	北村 光司氏 (産業技術総合研究所 人工知能研究センター 主任研究員)
販売事業者が取り組む商品安全推進活動 一子どものいるご家庭に届ける商品の安全を考える	大富 慎太郎氏 (株式会社ベネッセコーポレーション)	宇宙開発での信頼性・安全性分野に対する定量的リスク評価法の構築	藤本 圭一郎氏 (宇宙航空研究開発機構)
化学物質とリスクコミュニケーション	北野 大氏 (淑徳大学 教授)	ソフトウェアの安全・セキュリティリスク対策	神余 浩夫氏 (三菱電機株式会社)

2. 研究活動

ご希望の研究テーマごとに分かれ、指導講師と共に該当テーマについて深く検討、議論を行います。他企業、異業種の方との情報交流の場でもあります。安心して議論を行うため、参加メンバー・指導講師は、本研究会内での議論の内容・知り得た情報等に関し、「守秘誓約」を交します。ここでしか聴けない真摯な“ホンネトーク”ができるのは“本研究会ならでは”と言えます。

3. 成果発表会

最終月 (2021年3月26日 (金)) に、研究成果を発表していただきます。成果発表会終了後、情報交流会 (無料) を予定しております。

※2020年度の研究会にお申し込みいただいた方は、前年度 (2019年度) の成果発表会 (2020年3月13日 (金)) に無料でご参加いただけます。参加ご希望の方は、申込書にその旨をご記入ください。

■特別講演会、成果発表会だけの参加も可能です！

「特別講演会」と「成果発表会」は、研究会メンバー以外の方でもご参加いただけます。詳細は随時ホームページで公表します。

〔特別講演会〕 第1回: 2020年9月25日 (金) 予定
第2回: 2021年1月22日 (金) 予定
〔成果発表会〕 2021年3月26日 (金) 10:00～17:00 } at 日科技連 東高円寺ビル

〔研究対象Ⅰ〕製品等の開発段階におけるリスクアセスメント

この研究会の前身の R-Map 実践研究会の第 1 研究分科会の成果を踏まえつつも、R-Map 手法に捉われずに、製品の開発段階における実践的リスクアセスメントに関する調査・研究を行います。

例えば、自社のリスクアセスメント手法のブラッシュアップであるとか、あるいは全く新しいカテゴリ製品のリスクアセスメントの実践であるとか、開発段階におけるリスクアセスメントに関することであれば、全て研究の対象になります。

下図に示す PSPTA 法も、この研究会で大きく成長・発展させることができた手法の一つです。

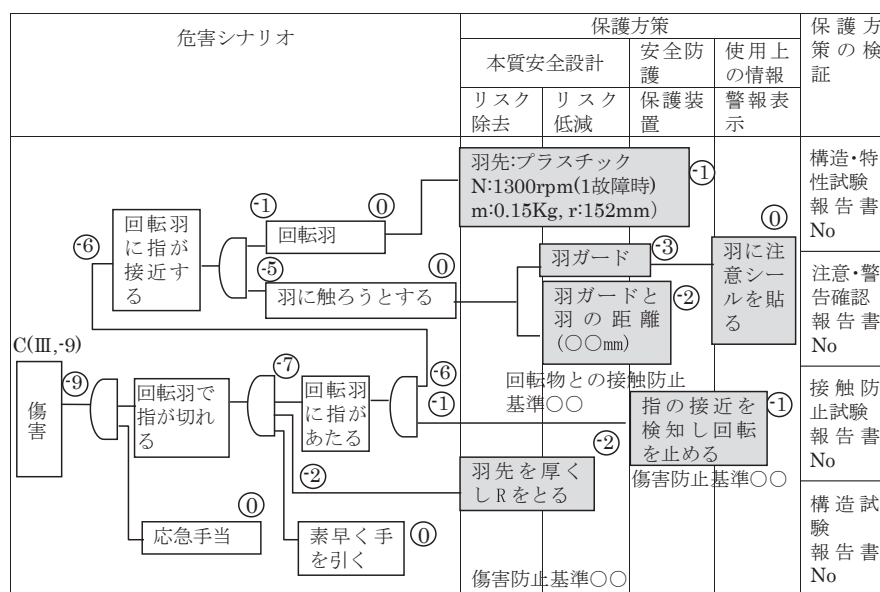


図 PSPTA によるリスクアセスメントの例

メーカーの設計や品質保証に、開発段階のリスクアセスメントに関する知識が必要であることは言うまでもありませんが、流通事業者や検査機関の方等、製品の開発に直接携わらないという方も、ステークホルダーの一員として開発段階のリスクアセスメントに関する知識を有することは、自社の優位性を築く上で極めて有用なものになるでしょう。

開発段階のリスクアセスメントの推進を担っている方、自社のリスクアセスメント手法をブラッシュアップしたい方、PSPTA 法等の実践的リスクアセスメント手法をマスターしたい方、リスクアセスメントにおけるリスク低減値を担保する試験法を作成したい方、調達品のリスクアセスメントを行いたい方、ご自分の身の回りのリスクアセスメントを行ってみたい方等、研究テーマには事欠きません。

また、近年、人と同じ空間を自律して動作するパーソナルケアロボットが急速に普及して来ています。産業用ロボットのように安全柵で人とロボットを空間的に隔離できないので、万が一暴走すると人に危害を与えるリスクが高くなります。機能安全技術を用いると、暴走して人に危害を与える前に、制御システムにより危険を察知して安全状態に移行することができます。そのようなリスク低減対策についても、この研究会で取り扱って行きます。



〔研究対象Ⅱ〕 事故情報に基づくリスクアセスメントと市場措置判断

官庁や公的機関から公表されている製品事故情報や、企業のリコール（自主回収・改修）情報を用いて、製品事故を未然防止するための研究を行います。

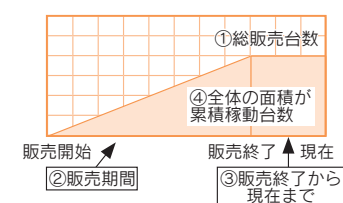
事故情報の分析結果から、リスクアセスメントがどうあるべきかを、プロセスを遡って検証していくことになりますので、リスクアセスメントの全体を俯瞰して見ることができ、普段リスクアセスメントの業務に携わっていない方にとっても、会社（または団体）内で、その成果や知見を広げられると考えております。

また、公表されている関連情報や各種統計情報などを利用することが多く、その入手方法、分析及び評価手法の習得にも役立つと考えます。

以下に代表的な研究事例をご紹介します。

- 1) 実際に起きた事案から、許容されるリスクレベルか、リスク低減が必要か等、開発段階でのリスクアセスメントの妥当性を探る。
- 2) 実際に起きた事案から、製品事故を未然防止するための最適なリスクファインディング方策を探る。
- 3) 実際に起きた事案から、傾向分析を行い、未然防止に繋げるためのフィードバックのやり方を探る。
- 4) R-Map で導出した結果と、実際にリコールが実施された（または実施されなかった）現状とのギャップを分析し、あるべきリコール判断基準を探る。

事例：発売開始より4年間で20万台を販売し、その後販売は終了して1年経過。
販売開始より現在まで、不具合が原因で200件の重傷事故があった。



■累積稼働台数

販売期間：

$(20\text{万台} \times 4\text{年}) \div 2 = 40\text{万台} \cdot \text{年}$

販売終了後：

$20\text{万台} \times 1\text{年} = 20\text{万台} \cdot \text{年}$

累積稼働台数：

合計 = 60 万台・年

■発生頻度

$200\text{件} \div 60\text{万台} \cdot \text{年}$

$= 3.3 \times 10^{-4}\text{件} / \text{台} \cdot \text{年}$

発生頻度	(件/台・年) ～ 10^{-4} 超	頻発する	C	B3	A1	A2	A3
5	10^{-4} 以下 ～ 10^{-5} 超	しばしば発生する	C	B2	B3	A1	A2
4	10^{-5} 以下 ～ 10^{-6} 超	時々発生する	C	B1	B2	B3	A1
3	10^{-6} 以下 ～ 10^{-7} 超	起りそうにない	C	C	B1	B2	B3
2	10^{-7} 以下 ～ 10^{-8} 超	まず起り得ない	C	C	C	B1	B2
1	10^{-8} 以下	考えられない	C	C	C	C	C
0							
			無傷	軽微	中程度	重大	致命的
			なし	軽傷	通院加療	重傷 入院治療	死亡
			0	I	II	III	IV

危害の程度

- 5) リスク評価を行う際、R-Map に、バイアス（偏向）という要素を加味し、客観的に判断するやり方を探る。
バイアスとは、被害者の属性や原因によって、リスクの程度を変化させるという考え方で、例えば、被害者が幼児の場合、防衛能力や怪我の程度は成人と異なるので、危害を重く捉える。

表 リスクバイアスの運用の一例

バイアス要素	内 容
①誤使用バイアス	意図する使用を逸脱した誤使用の場合、使用者に責任があるとしてリスクは通常マイナスされる。
②弱者バイアス	被害者が子供や高齢者等の弱者の場合は、リスクは通常プラスされる。
③メディアバイアス	メディアやSNS 上等で話題になった場合は、その内容次第でリスクはどちらの方向にも働く。
④長期使用バイアス	製品寿命を超えた使用の場合は、使用者の管理責任があるとしてリスクは通常マイナスされる。
⑤自己責任バイアス	使用者が常識的に求められるリスク回避策をとらなかった場合は、自己責任であるとしてリスクは通常マイナスされる。
⑥技術方策バイアス	同時期に発売された他社の同等製品と比較して、安全性能が劣っていることが原因の場合は、技術的欠陥として、リスクは通常プラスされる。

〔研究対象Ⅲ〕IoT時代の安全リスクアセスメント

現代の製品の多くは、ソフトウェアと無縁ではられません。今までは、ソフトウェアに頼らないで安全性を作りこむことを主眼にモノづくりを進めてきたメーカーも多いと思いますが、飛行機や鉄道などでは、ソフトウェアが人間をバックアップし、より安全なシステムを構築しています。ソフトウェアを安全要素の一環に組み込むためにはどうしたらよいのでしょうか？

昨今のIoT技術の急速な進化により、身の回りの多種多様な製品が、ネットワークを通じて有機的に結びつき、簡単・便利に利用できる時代になってきました。例えば、今やスマートフォンは、IoTの指令塔として、「あれば便利」から「無いと不便」「無いことは考えられない」存在へと変わってきています。一方で、ソフトウェアの脆弱性などの問題により、これまででは考えられなかったようなリスクが顕在化し、個人情報の漏洩やシステムの長時間にわたる停止といった危害が発生しています。脆弱性を事前に根絶することは困難なまま、IoT化の流れはさらに加速しています。

2019年度研究活動では、ロボット掃除機を例として、IoT機器のリスクアセスメントをどのように進めるのか、検証してきました。（自律的に動くこと、ネットワークにつながる機能など）



このような、ソフトウェアを含めたシステムとしての製品安全はどのように考えていけばいいのか、また、製品を使っていただくお客様と、どのようにリスクについてコミュニケーションを取ればいいのか、皆さんとともに考えていきたいと思います。

参考：関連セミナーのご案内

◆リスクアセスメント基礎コース 参加費 一般27,000円(税抜)／賛助会員22,000円(税抜)

【開催日程】 第1回：2020年4月21日(火) 第2回：2020年9月10日(木) 会場：東京・日科技連 東高円寺ビル

時 間	科 目	主要内容
10:00～17:00	リスクアセスメント概論(1)(2)(3) リスクアセスメント演習：R-Map 質疑応答	リスクアセスメントの基本、R-Map 手法の特徴 R-Map 関連手法の紹介、R-Map を使ったリスクの評価方法、開発段階の事例、市販後の事例、流通業者の対応 セーフティモジュール法 など

◆リスクアセスメント実践コース 参加費 一般45,000円(税抜)／賛助会員40,000円(税抜)

【開催日程】 第1回：2020年4月22日(水)～23日(木) 第2回：2020年10月27日(火)～28日(水) 第3回：2021年1月18日(月)～19日(火) 会場：東京・日科技連 東高円寺ビル

時 間	科 目	主要内容
1日目 9:30～17:30	リスクの見積もりと低減 PSPTA 法によるリスクアセスメント リスクアセスメント演習 (I)	リスクの見積もりと低減の考え方 製品の故障等に起因する事故の未然防止 PSPTA 法によるリスクアセスメント演習、演習発表
2日目 9:30～17:00	リスクファインディング リスクの見える化 HHA 法によるリスクアセスメント リスクアセスメント演習 (II)	リスクファインディングの手法 SM 法 誤使用等に起因する事故の未然防止 HHA 法によるリスクアセスメント演習、演習発表

◆リスクアセスメントエキスパートコース 参加費 一般71,000円(税抜)／賛助会員62,000円(税抜)

【開催日程】 第1回：2020年12月8日(火)～10日(木) 会場：東京・日科技連 東高円寺ビル

時 間	科 目	主要内容
1日目 9:30～17:30	危害シナリオの抽出、初期リスクの見積り グループ演習 (I) 安全の構築と残留リスクに対する評価	危害シナリオの抽出・記述及び初期リスクの見積り方 危害シナリオの抽出、レビュー 3 ステップメソッドと設計手法 ALARP 評価、表示種の判定
2日目 9:30～17:30	リスク低減の見積り グループ演習 (II) PSPTA によるリスクアセスメント グループ演習 (III)	確率計算によるリスク低減の見積り リスク低減の見積もり、レビュー PSPTA の作成及びレビューのポイント PSPTA の作成、レビュー
3日目 9:30～17:00	IoT 機器の安全確保 HHA によるリスクアセスメント グループ演習 (IV) 質疑応答	各種危害防止のための基本的要件 HHA の作成及びレビューのポイント HHA の作成、レビュー

◆リスクアセスメントによるリコールマネジメントセミナー 参加費 一般30,000円(税抜)／賛助会員25,000円(税抜)

【開催日程】 第1回：2020年8月26日(水) 会場：東京・日科技連 東高円寺ビル

時 間	科 目	主要内容
10:00～17:00	法規制(日本と欧米)、判定フローと措置の選択 消費生活用製品の判断事例、バイアスを応用した医療機器の事例分析、リコール判断のケーススタディ、質疑応答	重大事故報告やリコール報告に関わる制度 法規制による判断と自主判断について 国内における判断事例と欧州における現状、日米事例の上位概念と消費生活用品への展開、事例による演習

◆製品安全技術セミナー「基礎コース」 参加費 一般28,000円(税抜)／賛助会員23,000円(税抜)

【開催日程】 第1回：2020年9月28日(月) 会場：東京・日科技連 東高円寺ビル

時 間	科 目	主要内容
9:30～17:00	製品安全技術の基礎、事故調査技術の基礎 家電製品・IT機器、ヘルスケア製品から学ぶ安全規格と安全適合性評価、 ハードウェア、ソフトウェアの安全確保の基礎、 質疑応答	製品安全活動において理解しておくべき基礎知識、必要な情報や技術 事故調査の目的と手法、事故の根本原因と正処置 関連する安全規格、安全規格では判断が困難な事例 リスクアセスメントと安全規格適合性評価の上手な組み合わせ 安全達成の考え方、設計基準の考え方、ハザード分析技法、 ハードウェアによるリスク低減、ソフトウェアによるリスク低減

◆製品安全技術セミナー「スキルアップコース」 参加費 一般30,000円(税抜)／賛助会員25,000円(税抜)

【開催日程】 2020年9月29日(火) 会場：東京・日科技連 東高円寺ビル

時 間	科 目	主要内容
9:30～17:00	組織への展開：製品安全審査(PS レビュー)、導入のポイント 誤使用問題をヒューマンファクター技術で解決してみよう 【ケーススタディ】誤使用事故防止のケーススタディ、質疑応答	開発プロセスでの位置づけ、設計審査と製品安全審査、 記録文書の様式例、人材育成、合理的に予見可能な誤使用、 ヒューマンエラーへの対処法、リスク認知のバイアス 事例を参考にした事例演習

◆PS/PL マネジメントコース 参加費 一般47,000円(税抜)／賛助会員 40,000円(税抜)

【開催日程】 2020年7月6日(月)～7日(火) 会場：東京・日科技連 東高円寺ビル

時 間	科 目
1日目 9:30～17:30	製造物責任(PL)：PL 法理論、主要各国のPL 判例と訴訟防御策、社内システムにフィードバックするための判例事例
2日目 9:30～17:00	製品安全(PS)：マネジメントの概要、PS マネジメントシステムの構築

参加概要

■活動期間 2020年5月～2021年3月(年9回)

■開催日程	第1回	2020年	5月	29日(金)	第6回	2020年	12月	18日(金)
	第2回		6月	26日(金)	第7回	2021年	1月	22日(金)
	第3回		9月	25日(金)	第8回		2月	19日(金)
	第4回		10月	23日(金)	第9回		3月	26日(金)
	第5回		11月	20日(金)				成果発表会

■会場 一般財団法人 日本科学技術連盟 東高円寺ビル 研修室 (東京都杉並区高円寺南 1-2-1)
東京メトロ・丸ノ内線「東高円寺」駅下車・徒歩 5 分

■会費 一般・会員ともに 115,000 円(税抜) / 1 名
第 2 年度リスクアセスメント実践研究会からの継続参加者 100,000 円(税抜) / 1 名
※ 2020 年度は消費税転嫁対策措置法の総額表示義務の特例により税抜価格を表示させていただいております。2019 年 11 月現在の消費税(10%)を税抜価格とあわせて請求させていただきます。

研究会メンバー特別特典 シンポジウム、セミナーへの「ご優待券」を進呈!

- ①2020年度「信頼性・安全性セミナー」へのご優待(半額でご参加いただけます)
- ②2020年6月18日(木)～19日(金)に開催する「信頼性・保全性シンポジウム」へのご優待
※参加費38,000円(税抜/1名)のところ→特別価格18,000円(税抜/1名)

■申込方法 参加申込書に必要事項をご記入のうえ、E-mail、FAXまたは郵送で下記宛にお申込みください。
開催の約1ヶ月～3週間前に「開催のご案内」「参加券・請求書」等を送付いたします。
一般財団法人 日本科学技術連盟 セミナー受付担当
〒163-0704 東京都新宿区西新宿 2-7-1 小田急第一生命ビル 4F
TEL: 03-5990-5849 FAX: 03-3344-3022 E-mail: regist@juse.or.jp

研究会お申込みに関するキャンセルの取扱いとお願い

研究会にお申込み後、ご本人の都合が悪くなった場合には、原則として代わりの方のご参加をお願いします。また、止むを得ない事由により、お客様の都合でキャンセルされる場合には E-mail または FAX にて研究会第 1 回例会ご参加の前に連絡をお願いいたします。その際、連絡いただきました日にちにより、次のキャンセル料をご負担いただきます。

- 【キャンセル料】 開催日の 7 営業日前～2 営業日前のキャンセル ⇒ 参加費の 20%
- 開催日の 1 営業日前 17:00 までのキャンセル ⇒ 参加費の 50%
- 開催日の 1 営業日前 17:00 以降のキャンセルまたは事前のご連絡がなかった場合 ⇒ 参加費の 100%

■内容についてのお問合せ 最新情報は日科技連ホームページをご覧ください。 <http://www.juse.or.jp/>
一般財団法人 日本科学技術連盟 リスクアセスメント実践研究会担当
TEL: 03-5378-9850 FAX: 03-5378-9842 E-mail: re-group@juse.or.jp

2020年度(第3年度) 日科技連 リスクアセスメント実践研究会 参加申込書

●参加者

記入 不要	参加者名(ふりがな)	所属・役職・E-mail
		所属・役職: ----- E-mail:
	本研究会で取り組んでみたい・ 興味のあるテーマ	

●連絡担当者(お申込み受理後「開催通知」をお送りする方)

会社名		事業所		TEL	
所属・役職		担当者名		FAX	
所在地	〒			会員番号	
E-mail					
参加費	研 究 会	一般・会員ともに	115,000円(税抜) ×	名=	円
		継 続 メ ン バ ー	100,000円(税抜) ×	名=	円

※お支払いにつきましては、お申込み受理後、請求書と開催通知を併せてお送り致しますので、請求書発行後2ヶ月以内にお支払いください。
※ご記入いただきました企業・組織および個人情報、研究会の運営、参加申込み受付処理ならびに日科技連からの事業情報で送付のために使用させていただきます。